

## 公立保育所等経営審議会 議事録要旨

|     |   |  |
|-----|---|--|
| 日 時 | 令和元年12月9日(月) 午前10時30分～正午  |  |
| 場 所 | 市役所 本庁舎災害対策本部室  |  |
| 出席者 | 委 員   | (会長) 横山幸司、(副会長) 新井美保子、石井佳子、黒柳みゆき、齊藤由里恵、執行紀美代、杉田昌信、寺部暁、橋本晃、山田京子 |
|     | 事務局   | 副市長、企画部長、行革・政策監、経営管理課長<br>経営管理係長、経営管理課担当                       |
|     | 担当課   | 子育て健康部長、保育課長、保育課主幹、保育課課長補佐(保育経営担当)、保育課課長補佐(指導担当)、保育課専門主査       |
| 次 第 | 1 市民憲章唱和<br>2 辞令交付<br>3 市長あいさつ<br>4 自己紹介<br>5 会長の選任及び副会長の指名<br>6 会長あいさつ<br>7 諮問<br>8 安城市公立保育所等経営審議会について<br>9 安城市保育園等の運営状況及び特色について<br>10 その他 |  |

- 1 市民憲章唱和
- 2 辞令交付
- 3 市長あいさつ
- 4 自己紹介
- 5 会長の選任及び副会長の指名
- 6 会長あいさつ
- 7 諮問
  
- 8 安城市公立保育所等経営審議会について

(事務局説明)

### 【委員】

このように財政的に厳しくなるということは、他の市町村でも全て同じことであると思う。名古屋市が既に民間の保育所に変わってきているということを少し聞いたが、他の市町村のことを知りたいと思った。

### 【事務局】

近隣市では、碧南市が平成18年11月に移管計画を立て、平成20年から23年の4年間で5つの保育園を社会福祉協議会へ移管しています。豊田市は、平成15年から20年の間に4つの保育園を3社会福祉法人、6つの幼稚園を5つの学校法人に移管しています。

### 【担当課】

その他では小牧市、常滑市、豊川市等々近隣各市でも、民間の法人に移管するような動きは多々あります。具体的な事例について、資料も用意していますので、また後ほど詳しく説明をしたいと思っています。

### 【会長】

これは全国の自治体が検討しなければならないことである。積極的に取り組むかどうか差が出てくると思うが、今回、安城市は取り組むということで、審議会を立ち上げていると思う。具体的な事例については今後、説明があると思うので、現時点ではこのぐらいでよろしいですか。

次の議題だが、安城市の保育園等の運営状況をもう少し詳しく説明してほしい。さらに、今の無償化に関連する国の施策についても、説明をしてもらいたいと思う。その後、皆さんからご指摘をいただきたいと思う。

## 9 安城市保育園等の運営状況及び特色について／幼児教育・保育無償化の概要と本市への影響

(担当課説明)

### 【会長】

それでは委員の皆様にご質問等いただきたいと思う。安城市の保育園等の状況は、今まで公立と民間がバランスよくやってきたところである。

国の政策の幼児教育・保育の無償化により、試算すると市にとって大きな額の負担が生じ、逆に民間活力を導入していくと歳入が増えることが試算できる。その手法も様々あり、これは次回以降の議題になっていくと思う。この時点で、委員の皆様からわからない部分、お聞きしたい内容、感想でも結構ですので、ご意見をいただきたいと思う。

### 【委員】

仮にすべての公立園を民間園に移管した場合の試算として、17.5億円の歳入が増えるという話だったが、子どもは宝である。民間園にする場合、社会福祉法人と株式会社、二つのパターンの移管の方法があると聞いている。保育士が足りない状況で民間園に移管すると、給料が下がるのではと思うし、保育士を確保しようという動きの中、保育士の数

が増えるか不安に思った。

また、公立の保育士が民間園に移管した場合、今いる保育士はどうなるのか。保育士になりたくて就職したが、保育園がなくなり、保育以外の仕事に移る、辞めるということになれば、とてもかわいそうなことだと思っている。

#### 【会長】

民間への移管の手法については、次回以降、提示されると思うが、民間への移管は株式会社や社会福祉法人だけではない。社会福祉協議会あるいは事業団の設立など、公共的な団体に移管しても民間への移管の一つとなり、現在の保育士たちの雇用も確保できる。

市は、次回以降そうしたことに答えていただきたいと思います。

#### 【委員】

無償化の影響や民間手法の導入をした場合の財政的な効果は分かったが、委員も言われたとおり、現場の保育士はどのような状況になるか心配になる。

公立園を目指して入ってきた若い保育士のため、身分をしっかりと確保できるような民間手法を取り入れていけたらと思う。

#### 【委員】

制度体系などが複雑で分かりにくいところが多くあるが、三つぐらいに分けられると思う。

一つ目は、国が決めている制度により生じる問題、例えば市が入園者を決定する際、児童福祉法の規定に従わなければならないこと、10月時点で0歳児の待機児童が増えているのは、早く入所を希望した方が入りやすいということも聞いたこともあり、制度が待機児童を発生させる結果になったのではないかと。

二つ目は財政面。安城市が不交付団体ゆえに対応せざるをえない問題点を踏まえ、無償化が市にもたらす影響を考えなくてはならないのではないかと。

三つ目に、公立、民間という運営主体による違いの中、どこに問題が位置しているかの整理が、少しずつ一緒にできればいいと思う。

そして、安城の子育てに対する政策を入れ、今後どのような形にしていくか。この10年のデータを見ても、大きく変わっているので、10年20年30年先をどう見せていくかということも、念頭に置き考えていかなければならないとすると、そのように整理をしていければいいと思った。

#### 【委員】

同じ安城市民の子どもたちが公立園・民間園を利用することで差があってはいけない、子どもの利益を最優先に考えてほしいと思う。

民間保育園は、保育士不足のため有給休暇が取得しづらかったり、休憩が取りにくかったりする。また、公立保育園と民間保育園では開園時間の違いもあり、子どもが公立保育

園に行くことによって不利益が生じるということもある。

**【委員】**

幼稚園のニーズが下がっており、0～2歳児に待機児童も出ているので、まずは保育園をどうしていくかということを考えなければならないと思った。

幼稚園と保育園のすみ分けのようなことも含めて、運営のあり方を考えていければと思った。

民間へ移管すれば国や県から補助が出るが、他からもらえれば良いという考え方、市としての方針はどうかと思った。

**【会長】**

委員のおっしゃるとおり、今後そのようなことが出てくると思う。今日は財政の面が強調されたが、それだけではないはずで、市は考えていると思う。

**【委員】**

公立、民間、どちらが良いかよくわからなかった。17.5億円が国及び県から出るということだが、安城市だけでこれだけ出るので、他の自治体も手を挙げていった場合、国の負担が大きくなるので、これが永遠に出続けるお金なのか、少し心配である。結局そのあたりが今後どうなっていくのかということまで含めて気になった。

**【委員】**

低年齢児の入園希望者が増えていくことに対し、安城市は取り組んできたわけですが、今回の審議のきっかけは、今年10月からの無償化が1番の原因かと思う。

安城市にとっての子育てシステムは、公立の幼稚園、公立の保育園、そして私立の幼稚園、私立の保育園みんなで協力し、行政が指導するという考えであった。

この民間というのは何か。都合のいいときは私立も民間に入れられる。また、私立の幼稚園、学校法人は学校教育法で守られているのではなく、学校教育法で縛られている。公立園の経営に民間活力を導入する際は、最終的に子どもの幸せにつながるかどうか慎重に見極める必要があり、一方で、幼児教育・保育の無償化が市の財政にもたらす影響も真剣に考えていかねばならない。

**【委員】**

市の負担は減るが、国と県の負担が増えるため、結局回り回ってくることになり、どこまであてにしているのか。

公立幼稚園2園をこども園に移行することになった状況と、今回の審議対象にこども園への移行も入っていたか知りたい。

**【委員】**

10月から始まった幼児教育・保育の無償化が市の財政負担を非常に重くし、財源をどう確保するかということなのだろう思った。

国の少子化への対応、女性労働者を増やすための子育てと就労の両立から始まる施策であり、その結果、保育所の入所児が増え、経費も増える話だと思う。

そのため、国の施策に安城市も忠実に則り、確実な成果を出してきたと思う。女性の就労により市民が幸せになる、子育ても保障されるということであれば、非常に望ましい状態だと思う。

しかし、幼児教育・保育の無償化に伴い予想外の出費が生じる、これを単に民間に移管することで、補助金が幾らか増えるということで安易に決めることはどうかと思う。市全体の枠組みの中で、どのように再構築するかと感じた。

0歳から5歳の子どもの人口が今後減少するという見通しもあり、保育園、こども園、幼稚園が増加あるいは減少することを考えれば、今、大変だから民間に移管というところも含め、長期的に考える必要があるかとも考える。

子どもは宝であり、子どもファーストの考え方で取り組んでいく必要があるだろうと思う。教育・保育施設において生活し、学び、成長していく子どもたちの発達がどの程度保障できるのか。心身の安定のためには、先生方の適切な働きかけ、環境も不可欠であり、それを市がどのように保障するかという問題だと思う。安城の保育は公立園が主導し、質の高い保育を目指してきた、小学校との連携なども含めて多面的な役割を担ってきたことも考えれば、公立園でできること、民間園でできることも頭に置きながら今後検討していく必要がある。

#### 【会長】

この経営審議会は、公か民かという話ではない。民が悪とか、直営が正しい、という人がいるが、そうではない。幼児教育を遂行していく上で、持続可能で、望ましい形態を考えなければいけない。

一方で、地方自治体は弱い立場で国の政策に従わざるを得ないところがある。こうした補助金、制度があるということに対して、それを取りに行くことは決して悪いことではなく、生き抜くために必要なことである。

そのため現実的な対応で、安城市としてビジョンを持ち今後の幼児教育を進めていくか。公と民、お互いが補完し合い、力を出し合いながら、幼児のために良い教育を行うことが大事となる。

そのために具体的な手法を検討していかなければならない。ご指摘を踏まえて、仮に何らかの民間手法を導入するとしたならば、他市の事例のメリットや課題なども踏まえて、安城市が目指すところ、提案を示していただきたいと思う。